



看護部通信

第63号

#HOSPY

HOSPYグループ腎透析事業部看護部 2026.10.1 発行



フレイル対策・腎臓リハビリテーション

慢性腎臓病患者は、心血管疾患やサルコペニア、フレイル等の合併症のリスクを抱えています。それらの予防・機能維持・生活の質の向上を目的に腎臓リハビリテーションが推進されており、各施設で力を入れていることを教えていただきました。

作業療法士 長坂 美紀さん

看護部の皆様、いつも巡回活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。
2024年よりグループ内の透析クリニックを巡回し、患者さんの在宅生活継続の支援と、日々患者さんを支える皆様のサポートに取り組んでいます。
活動としては、運動の提案やADL評価、リハ目的の入院やフレイル対策入院のご案内など、状態が大きく低下する前の早期介入に努めています。
リハスタッフは、患者さんの「やりたい生活」を支える専門職です。
「最近歩き方が気になる」「着替えの時間が長くなった」など皆様だからこそ気づける小さな変化やサインが支援の大きな第一歩となり、そこにリハの専門性を掛け合わせることで、より手厚い支援が可能になります。
今後も皆様としっかり連携し、患者さんの「自分らしい生活」を共に支えるパートナーとして尽力してまいります。
「少し気になる」という段階でも構いません。気になる方がいましたら、巡回時に気軽にお声がけください。



新生会クリニック

受け持ち看護師よりリハビリを勧めた方が良い患者さんへフレイル対策入院を進めて腎リハ開始へ繋げることや、腎リハ終了後もアフター腎リハを全員に進め、運動を継続して行える環境を提供しています。また自宅での運動も継続して行っています。週1回の確認と声掛けを行っています。今後はヨルの腎リハを普及や、ロコステップの導入、スタッフ全体の腎リハの受講率アップを目標としています。

平針記念クリニック

透析患者が「自分の脚で歩いて通院ができる」を守るため腎臓リハビリテーションに力を入れています。腎リハ終了後も運動ができるよう、リハビリセラピストと連携し個別ニューや上級者身体機能評価を取り入れ、支援をしています。また、自主練スタンブラリーを作成し患者のモチベーション維持に繋がっています。



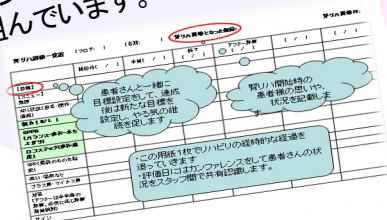
東海・東海知多クリニック

通院透析を継続できるよう、セラピストや腎リハ指導士とともに腎リハに取り組んでいます。腎リハ長期継続者にはモチベーション維持のため、受持ち看護師からのコメント付き表彰状をお渡ししています。オーラルフレイル対策として「吹き戻し」を勧め、嚥下機能低下予防に努めています。



鳴海クリニック

カンファレンスを通して患者情報を共有し、スタッフ間で共通認識をもって支援できるよう評価用紙を作成しています。患者様ひとり一人の思いや目標に目を向け、「やってみよう」「頑張りたい」という気持ちを引き出し、リハビリテーションへのやりがいや繋がれるよう取り組んでいます。



新生会第一病院

当院の透析通院患者はADLの低い方が多く、新規で腎リハを実施できる患者は少ないため、フレイル対策入院の推進を強化しています。入院中に関わったコメディカルと退院後も連絡が取りやすいため、患者もスタッフも安心感があり、リピート希望者が多いのが特徴です。今後もこのメリットを生かして新しい患者にもフレイル対策入院を勧めていきます。

金山クリニック

腎リハプロジェクトが主体となり、学習会の開催やマニュアル作成など、スタッフが継続して実践できる体制づくりを進めています。患者一人ひとりに合わせた運動メニューを行い、アフター腎リハの継続率も上昇させることができるよう取り組んでいます。今年度からナカ・ヨル透析の患者にも腎リハを推進し患者自身がフレイル予防の必要性を理解し、継続して運動に取り組めるよう支援しています。



全国的に地震や水害等の自然災害が多発しており、私達の住んでいる愛知県も“南海トラフ地震”がいつ発生してもおかしくなと言われています。各施設の災害委員に「**力を入れている取り組み**」について教えていただきました。また、JHAT隊員に登録しているお二人に、「**登録したきっかけ・今後取り組みたいこと**」についてコメントをいただきました。



金山クリニック

年2回、職員・患者を対象とした防災訓練を実施しています。職員には想定した災害シナリオに基づく実践形式の訓練や消火訓練など、毎回内容を工夫し、多様な状況に対応できる力の向上を図っています。患者には動画視聴やパンフレット配布を通して防災意識を高め、災害時自ら行動できるよう啓発しています。CE部と連携し、生食返血や生食プライミングも計画的に訓練し、透析中の災害発生に備えています。

新生会第一病院

当院では広域災害防災対策マニュアルに基づいて年に2回、防災訓練を実施しています。その際、緊急連絡網のチャットソフトに安否確認の操作訓練も行っています。透析室では2月に初めてアクションカードを使用し、緊急離脱からの避難を想定した訓練を実施しました。今後も様々な場面で想定した訓練を定期的に行う予定です。



鳴海クリニック

災害発生時に備え、スタッフの安否確認体制の整備に取り組んでいます。出勤していないスタッフに対して社用チャットツールを活用し、本人や家族の安否、出勤の可否などを確認する予定です。迅速に情報を共有することで、限られた人員の把握と勤務体制の調整につなげるのが目的です。災害時に混乱なく対応できるよう、定期的な訓練や連絡体制の見直しをしたいと考えています。

災害対策

平針記念クリニック

防災マニュアルの整備とハザードマップの確認により、当院は災害の影響を受けにくい立地であることを確認しました。一方、災害時の体制はまだ十分ではありません。消防署の助言を踏まえた避難方法を基に、実践的な訓練へ向け検討を進めています。今後も訓練を重ね、安全を第一とした災害対策の確立を目指していきます。



東海・東海知多クリニック

避難場所まで実際に避難する実働型災害訓練に加え、実際のリアルな災害発生事例をもとにした避難方法を考える机上訓練を行っています。LINEWORKSを活用した職員の安否確認訓練・全職種対象に自助・共助のWSを実施しています。また、期限切れが近い非常食の試食会を実施し職員ロッカーの備蓄やローリングストックの啓蒙活動を行っています。



新生会クリニック

当院では患者参加型訓練として、透析中に電源を落としてバッテリー運転とし停電を再現し、緊急地震速報を流して初期行動を体験してもらっている。透析中の訓練動画の個別視聴や自宅避難先のリスト化、緊急簡易トイレ整備にも取り組んでいます。



JHAT隊員（日本災害時透析医療協働支援チーム）

新生会第一病院 透析室 山根 明子さん

JHATの研修は友人から誘われて参加しました。最初は災害対策の知識が増えればと思って参加しましたが、JHATの活動に心動かされ、大規模災害時に私にもできる事があるのではと思い隊員登録しました。今できる事は、①今起こっている災害を自分事として捉えることができるような患者への情報提供や教育、②災害対策委員として実践可能な災害準備、そして、透析室での災害訓練をアップデートしながら繰り返し実施することだと考えています。



東海クリニック 山本 咲良さん

2022年度の腎不全看護学会でJHATの講演を拝聴し、災害時に透析医療を支えるチームの必要性を強く感じたことが、隊員を目指すきっかけとなりました。以前から地域の災害時健康活動サポーターとして学んできた経験を活かし、透析看護師として災害時の支援に携わりたいと考え登録しました。現在は、研修内容の共有や院内災害訓練、JHAT取得スタッフによる災害共有会を企画し、院内での災害支援への理解を深めています。



しかくの広場

CDEJ(日本糖尿病療養指導士)松田航さんと

CKDLN(慢性腎臓病療養指導看護師)出口埋果さんからお話を伺いました

松田航さん(新生会第一病院 2 階病棟) 2025 年 CDEJ 取得

どんなことをしているの？

現在は病棟を中心に活動しています。

【個人の活動】

入院患者やそのご家族に対し、インスリン自己注射や血糖自己測定の方法、糖尿病に関する知識などの療養指導を行っています。また、資格取得に向けて知識を深めたことで、入院患者の低血糖時の対応などについても以前より自信を持って取り組めるようになりました。

【チームの活動】

院内の「糖尿病透析予防チーム(CDEJ 班)」に所属しています。CDEJ 班では、入院患者や外来通院患者への療養指導をはじめ、当院外来通院患者と家族を対象とした糖尿病教室の開催、院内スタッフへの勉強会などを行っています。また、院内で生じている糖尿病に関する問題や、対応に困っている事例についてチームで検討するとともに、糖尿病に関する新しい情報を院内に発信し、情報提供と周知にも取り組んでいます。



資格の活用・今後の目標

資格取得までの道のりは決して簡単ではありませんでしたが、取得後は療養指導を任される機会が増え、糖尿病に関するさまざまな事例にも自信を持って対応できるようになりました。

今後も研修などに参加して自己研鑽を重ね、より良い療養指導につなげていきたいと考えています。そして、その積み重ねが患者の健康と QOL(生活の質)の向上につながればと思います。

出口埋果さん(新生会第一病院 透析室主任) 2024 年度 CKDLN 取得

資格を取得したきっかけ

私は当院に勤務するまで、急性期における看護を中心として学んできました。透析患者は透析を継続しながら長期にわたって生活していくため、急性期とは異なる視点で患者を捉える必要があると感じ、透析看護を深めたいと思い CKDLN を取得しました。



どんなことをしているの？

現在、CKDLN が直接的に関わる委員会には所属していませんが、今年度より当院で設立されたハートチームに所属しています。

資格の活用・今後の目標

資格を取得したことで、専門的な知識を身につけることだけでなく、自身の患者の捉え方や看護実践を見直す機会となりました。今後も、患者を長期的かつ多面的に捉えながら、その人が治療と生活を両立できるように支援していきたいと思っています。

腎疾患は全身疾患と言われるほど、透析患者には様々な合併症があります。その中で、腎不全と循環器疾患は密接に関連しており、腎不全と心不全を切り離して捉えることはできないと感じています。

心不全の病態や治療・再発予防・療養支援について専門的に学び、透析患者の心不全管理に活かすことを目的として、今年度は心不全療養指導士の取得も目指しています。



2026年度腎ケアナースの取り組み

腎ケアナースは「越境的な対話と学び・グループ連携」を目標とし、今年度は以下の4点に取り組んでいきます。

- ① 「臨床推論とSBAR」学習会を各サテライトのリーダクラスへ拡大する
- ② 透析を知らない職員向けに、透析治療や働き方に関する情報を提供する
- ③ 地域の施設職員やケアマネージャー向けに透析を伝えるツールを作成する
- ④ 資格取得希望者の支援や取得者同士の交流会の開催、しかくの広場の発行

月	行事
9月	・9/30CKDLN 情報共有会
10月	・しかくの広場 発行 ・10/13(火) 透析学習会①
11月	・11/25(水) 透析学習会②
12月	・12/23(水) 透析学習会③
2027年1月	・1/20(水) CKD スタッフ学習会
3月	・3/11(木)SBAR 学習会

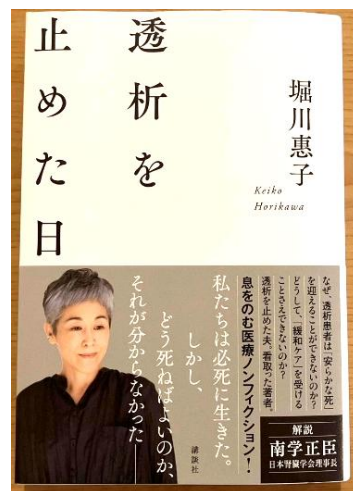
腎ケアナースメンバーおすすめの本紹介

「透析を止めた日」

堀川恵子 著、講談社、2024 年
鳴海クリニック CKDLN 林 美里 副主任

透析医療に携わっていると、「透析を続けることが、その人にとって本当に望む医療なのだろうか」と考える場面に出会うことがあります。

『透析を止めた日』は、透析を「続ける」ことだけを前提とせず、透析をやめるという選択に至るまでの患者さんや家族、医療者の思いに触れながら、治療と人生について考えさせられる一冊です。透析室看護師として患者さんと長く関わるからこそ、日々の何気ない会話や小さな変化を大切に、「その人にとっての最善とは何か」をともに考えていく姿勢を持ち続けたいと思いました。本書は、透析医療に関わるすべての医療者に、ACPや意思決定支援について改めて考えるきっかけを与えてくれる一冊だと思います。



「病を引き受けられない人々のケア」

石井均 著、医学書院、2018 年
新生会第一病院 外来看護師
CDEJ(日本糖尿病療養指導士) 腎臓病療養指導士
梅谷美奈 副主任



糖尿病について学ぶ中で、「糖尿病患者は〇〇だね」とネガティブな言葉が耳に入ったり、実際に思ってしまう自分がいた時に「スティグマ」について考える機会があり、上司から勧めてもらった一冊です。この本は、糖尿病の知識や治療法を学ぶというより、「病気とともに生きる人の気持ちをどう理解するか」を10人のさまざまな分野の専門家と石井さんとの対談を通して、患者さんの言葉や行動の奥にある気持ちを掘り下げています。「医療者と患者さんでは病気の見え方が違う」ことに気づかせてくれるのではないのでしょうか。患者さんの言葉や行動の奥にある思いや葛藤に目を向け、「聴く・続ける・待つ」ことの大切さを教えてくれます。患者さんに寄り添うとはどういうことなのか、日々の看護や自分自身の関わり方を改めて考えるきっかけになる一冊です。